

農地法による許可申請受付〆切は毎月10日です

第51号

昭和53年創刊号から通算第136号

農政

ちちぶ

令和8年1月1日発行
秩父市農業委員会
秩父市熊木町8番15号
電話 0494(25)5231
責任者 横田 友



令和7年度 第20回 農業に関する作文・図画コンクール
図画の部 **最優秀賞**

影森小学校 4年 新井 ^{こうや}煌也さん
「スイカをしゅうかくしようとするぼく」

主な内容

- 農業委員長あいさつ 2
- 令和7年度第20回農業に関する作文・図画コンクール 3～6
- 農業政策課・鳥獣対策課・農業委員会からのお知らせ 7～8
- 朝の光、耕地の話題 9
- 農を詠む、知々夫の夜ばなし 10

新年のご挨拶



秩父市農業委員会
会長 横田 友

会長 横田 友



新年にあたり、謹んでごあいさつ申し上げます。

皆様におかれましては、つつがなく新しい年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

昨今の農業情勢は、生産資材の高騰、気候変動など現場を取り巻く状況は、厳しい状況にあります。消費者を悩ませる米の価格の上昇の背景には、農家の高齢化や後継者不足により稲作、畑作面積が減り続けております。また、近年の猛暑といった異常気象などが、米の収穫量や品質に悪影響を与えていることも米価を押し上げる要因となっております。さらにガソリン代や電気代、肥料や農薬といった農業に必要なものの値段が上がっていることも影響しています。今後消費者の皆様が負担が減り安心して生活が送れる事を願うばかりです。

昨年も農地法第20条の規定に基づき、農業委員、農地利用最適化推進委員が連携し、農地の利用状況を把握し遊休農地の発生防止、解消に向けた取り組みとして農地パトロールを実施しました。このときの農地利用状況調査の結果に基づき、農地の利用意向調査を行います。農地のことで相談や困りごとなどありましたら、担当委員、農業委員会にご相談ください。

今後とも地域に根ざした担い手の確保、農地の集積・集約化、遊休農地発生防止・解消、新規参入の促進などに邁進してまいります。引き続き農業委員会活動へのご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、皆様の益々のご健勝とご多幸をお祈り申し上げます。新年のご挨拶とさせていただきます。本年も宜しくお願い申し上げます。

あさぎり町農業委員会の視察

11月12日熊本県あさぎり町農業委員会の視察を受け入れました。

あさぎり町は熊本県南部にある球磨盆地の中心に位置し、昼夜の寒暖差が大きく、美味しい果物や野菜、良質な米、肉などが豊富に採れ、米焼酎の生産も盛んだそうです。

当日は、あさぎり町の農業委員19名と職員2名が訪秩されて、横田会長の講演、市鳥獣対策課長による鳥獣対策についての説明を熱心にお聞きいただいた後、活発に意見交換をいたしました。



経営とくらしに役立つ情報をお届けします!

農家のための情報誌

「全国農業新聞」

- ◆発行日 週1回(金曜日)
 - ◆発行元 全国農業会議所
 - ◆購読料 月700円
- [送料、税込み]



第20回 農業に関する作文・図画コンクールを開催しました。

秩父市内の小学生を対象にした農業に関する作文・図画コンクールを開催しました。

本コンクールは、小学生に農業への関心をもってもらうこと、農業の現状や未来に対する意識を深めることを目的とし、実施しています。

本年は、作文が22点、図画が45点の作品の応募があり、入賞作品は審査会を経て次のとおりに決定しました。

作文の部 入賞者名

(敬称略)

【応募作品22点・入賞作品11点】

賞 別	学年	学 校 名	氏 名	題 名
最優秀賞	6年	原谷小学校	彦久保 朝光	おじいちゃんの野菜を守りたい！
優秀賞	6年	荒川西小学校	新井 葉月	野菜を育てることの楽しさ
優秀賞	6年	尾田蒔小学校	島寄 優歩	ナス作りで気づかされたこと
優良賞	1年	影森小学校	沖田 紗優	じいじのおやさい
優良賞	4年	花の木小学校	新井 啓市	ぶたにく
優良賞	4年	花の木小学校	平沼 精耕	大すきな田んぼ
優良賞	5年	南小学校	知久 憬翔	おいしい野菜をありがとう
優良賞	6年	花の木小学校	飯田 優美香	「お米について」
優良賞	6年	大田小学校	木本 大貴	ジャングル菜園にいた虫退治
優良賞	6年	南小学校	柴崎 悠斗	農業と地球温暖化
JAちちぶ特別賞	5年	南小学校	加藤 燎	家の畑で学んだこと

図画の部 入賞者名

(敬称略)

【応募作品45点・入賞作品12点】

賞 別	学年	学 校 名	氏 名	題 名
最優秀賞	4年	影森小学校	新井 煌也	スイカをしゅうかくしようとするぼく
優秀賞	4年	原谷小学校	彦久保 七春	きゅうりの収穫をするおじいちゃんとおばあちゃん
優秀賞	5年	高篠小学校	関河 大雅	とうもろこし、おいしいな
優良賞	1年	尾田蒔小学校	富田 歩	かわいいうし
優良賞	1年	原谷小学校	富田 大地	たのしいじゃがいもほり
優良賞	4年	大田小学校	福田 結花	じゃがいもほり
優良賞	5年	大田小学校	富田 拓夢	野菜大好き
優良賞	6年	大田小学校	木本 大貴	肥料をまくおじいちゃんと田んぼとトンボたち
優良賞	6年	荒川西小学校	坂本 莉音	収かくを手伝う父
優良賞	6年	高篠小学校	森田 真衣	お茶もってきたよ
振興部会賞	2年	原谷小学校	富田 陽菜	わたしの大きなやさい
JAちちぶ特別賞	6年	原谷小学校	家内 結愛	おいしいお米ができますように

※各部門入賞作品数

最優秀賞 各1点、優秀賞 各2点、優良賞 各7点、振興部会賞（図画）1点、JAちちぶ特別賞 各1点、
※優秀賞・優良賞の中の並び順は、学年順です。

図画作品については、今回より振興部会賞を設けています。

作文の部

最優秀賞

「おじいちゃんちの野菜を守りたい！」

原谷小学校 6年 彦久保 朝光

ぼくの家は、畑で囲まれています。それは、ぼくのおじいちゃんとおばあちゃんの家です。その畑では、一年中色々な種類の野菜を作っています。夏野菜では、きゅうり、オクラ、ナス、とうもろこし、トマトなどぼくの大好きな野菜ばかりです。特にきゅうりが大好きで、夏休みはきゅうりを切るお手伝いをたくさんしました。お母さんに「きゅうり切つてー」と言われると、すぐにキッチンへ行き、きゅうりを切ります。「はやく食べたいなー」と思いながら、みずみずしいきゅうりを切っていました。塩もみをしたり、浅づけで食べるおじいちゃんちのきゅうりは、最高においしいです。

でも、だんだんとおじいちゃんちの夏野菜を食べる機会がなくなってきたしまいました。畑にいるおじいちゃんに「きゅうりやナスは、もうないの?」とぼくが聞くと、おじいちゃんが少し困った顔をして話を

してくれました。「今年の夏は、特に暑くて手入れが大変だった。雨が降らなかったから、畑の土が硬いから草むしりも大変。そして、暑すぎて、野菜もやけてしまう。暑さと水不足で収穫する量が少なかったんだ。」と言っていました。おじいちゃんは、「暑いのは、もうどうしようもできないからな」と悲しそうにしていたけど、ぼくは、何とかしてあげたい!と強く思いました。

暑さから野菜を守るためには、どうしたら良いかたくさん調べてみました。しゃこうネットを使って直射日光を軽減したり、夕方など気温が下がりはじめの時間に、葉っぱに水が当たらないように水やりをしたり、暑さに強い品種を選ぶことも、良いようでした。ぼくも、「来年はおじいちゃんのお手伝いをして、野菜を守るね」と話すと、おじいちゃんがすごく嬉しそうに、「ありがとう」と、ほほ笑んでくれました。

また、とうもろこしや、スイカは、今年は、暑さだけでなく、鳥やカラスの被害が大きかったようです。スイカは、12個できたのに、穴をあけられてしまつて1個しか収穫できなかったと聞きました。おじいちゃんと、おばあちゃんが、毎日、畑仕事を頑張っている姿を見てきたので、とても悲しい気持ちになりました。来年は、網をして、対策をしよう

話していたのでぼくも手伝おうと思っています。

今年の暑さは、異常で朝晩水をあげても、暑すぎて水が蒸発してしまつたので全体的に、野菜の出来が悪かつたようでした。この暑さは、地球温暖化の影響だと夏休みに読んだ本で知りました。温暖化をとめるために使っていない電気をこまめに消したり、ゴミを減らしたりして、家族とも協力して出来る事をやってみようと思います。

野菜を育てる事は、とても大変な事だと改めて感じました。いつも新鮮でおいしい野菜を食べているぼくは、とても幸せ者だと思いました。秋になれば、にんじん、白菜、大根、ほうれん草など出来るので楽しみです。おじいちゃんちの野菜を守るために、ぼくが出来ることを頑張りたいです。

優秀賞

「野菜を育てることの楽しさ」

荒川西小学校 6年 新井 葉月

私の通っている荒川西小学校は山々に囲まれて、自然豊かな小学校です。私は環境給食委員会に入っています。主に学校で育てる野菜に関する仕事を全て行っています。地域の方にも協力してもらったり、校務員さんが畑を耕してくれるので、私たちは種

をまいたり、苗を植え、水やりや草むしりも行います。草むしりは、暑い中行うのも大変だけれど、のびた草がうでや足に当たるとかゆくなるのも大変でした。取かくできる時には、とてもうれしい気持ちになります。

昨年は、にんじんを収穫く前日に全てサルに取られてしまい、とても残念でした。ほかの野菜も育ててもサルに取られてしまうことが多かったです。今年は秩父市の色々な方に協力していただき、電気柵を設置してもらいました。今まで育てていたイチゴも今年は全校児童、先生方もたくさん食べることが出来ました。みんな収穫くを喜びました。

ジャガイモ、玉ねぎ、にんじん、ニンニクも沢山育ち、収穫くは保護者の方にも手伝ってもらうほど豊作でした。休み時間に草むしりを頑張つてきて良かったなと思いました。

今年も学校行事でカレーを作りました。小学校で育てた野菜がたくさん入っていてニンニクたっぷりのとてもおいしいカレーが出来ました。今まで食べたカレーの中でも特別においしかったです。その後、野菜の販売としてジャガイモの詰め放題をしました。沢山の方が私たちが育てた野菜を買ってくれました。この委員会に入って色々な経験ができたので、良かったです。とてもやりがい

のある委員会でした。

夏休み中もぐんぐん育つ野菜の収穫に行きました。きゅうり、ナス、ピーマン、トマト、パプリカなどの野菜も沢山収穫できました。電気柵を張ることでこんなにも収かく量がちがうことにはおどろきました。草をとって水をあげて、おいしく育つてねと思い、また次に何を育てるかとても楽しみです。沢山の方々に協力していただいて、野菜を育てる楽しさがわかりました。これからの季節もどんな野菜を育てて、どんな料理ができるかな?と考えると、今から楽しみです。

優秀賞

「ナス作りで気づかされたこと」

尾田蒔小学校 6年 島崎 優歩

今年も、おじいちゃんに教わりながら、昨年のミニトマトの体験をいかし、今年は、ナスを作ってみる事にしました。しかも、丸ナス、長ナス、白ナスの三種類に挑戦してみました。

五月の初めに、おじいちゃんと一緒になえを植えました。初めは、水だけをあげて一週間ぐらいしてからなえの間に肥料をあげました。そして、根元が乾かないようにわらをしました。段々となえが成長して、むらさき色のきれいな花が咲きまし

た。花が見られるのも、自分で野菜作りをしてみないと知ることが出来ないで、野菜作りって本当にすごい体験なんだと思いました。

やっとナスが出来て、無事に収かく出来た時の気持ちは、きつと忘れないし、作った人しか感じられないステキな気持ちなんだなあとと思いました。

丸ナスは、天ぷらにして、長ナスは、つけ物にしたり、白ナスは、皮が固かったけど、中はやわらかかったので油みそにして食べました。家族に食べてもらったら、「すごくおいしいね。」と言ってくれました。

ニコニコしながらおいしそうに食べているのを見ていたら、すごくうれしい気持ちになり、きつと農業を続けていく人達にとつて、大変な事よりも、おいしいという言葉と笑顔があるからがんばれるのかなと思いました。

最近のニュースは、もう暑日が続いて米不足や野菜の値段が上がっているニュースばかり流れています。私の今まで知らなかった備ちく米がお店に並んだり、農家の人にとつても、天気はどうにも出来ない問題で、これからも大変だと思います。出荷が出来なくなった野菜をニュースで見た時、大事に育てた野菜が誰にも食べてもらえないなんて、とてもショックでした。私達が、毎日当たり前の

ように食べている野菜やお米は、食

べられるのが当たり前ではなくて、大変な思いをして農家の人達ががんばって作り続けていてくれているから食べられるんだと改めて思いました。

これからは、もつと食べ物を大事にして、ありがとうの気持ちをこめて「いただきます」「ごちそうさま」と言おうと決めました。

小学生の私でも、少しでも農家の人達の力になりたいし、また家族にうれしいと言ってもらいたいのので、がんばって野菜作りを続けていきたいと思いました。

JAちちぶ特別賞

「家の畑で学んだこと」

南小学校 5年 加藤 燎

ぼくの家の庭には、父が育てている畑があります。きゅうり、オクラ、トマトが並んで元気に育っていて、ぼくも水やりや草取り、支柱立てなどを手伝っています。今年の夏も暑く、日中は四十度近くまで気温が上がって、畑仕事は汗でびしょになりながら、土が乾きすぎると野菜はしおれてしまい、急にゲリラごう雨が降ると根が水につかってしまうこともあります。天気ひとつで野菜の育ちが変わるので、父は毎日天気予報をみながら心配して作業していま

した。

畑での作業は思ったより大変ですが、野菜の成長を見守るのは楽しいです。トマトの赤い実を収かくしたときは、太陽の光をいっぱい浴びて輝く姿がとてもきれいで、手をかけた分だけうれしさも大きく感じました。オクラやきゅうりも、葉の間から顔を出したときに見つけると、思わず笑顔になります。父は「野菜は人の手で守ってやらないと元気に育たないんだ」と話してくれました。ぼくは、その言葉の意味を少しずつ理解できた気がします。

畑仕事を通して、野菜が育つのに土や水、太陽、そして人の努力が必要だと学びました。猛暑や豪雨などの天候の影響で、思うように収穫できないこともあります。そんな時は父も少し悔しそうですが、それでも毎日手をかけ続ける姿を見て、ぼくも頑張ろうと思います。野菜を育てる大変さと、育った時の喜びを体験できることは、ぼくにとつてとても大切な学びです。

これからも父と一緒に畑を大切に、野菜を無駄にせず食べることを心がけたいです。そして秩父の自然や畑の恵みに感謝しながら、家族や友達にも、野菜作りの楽しさを伝えていきたいです。畑での経験を通して学んだ事を、これからの生活でも活かしていきたいと思っています。

図画の部



振興部会賞

「わたしの大きなやさい」

原谷小学校 2年 富田 陽菜



優秀賞

「とうもろこし、おいしいな」

高篠小学校 5年 関河 大雅

コンクール講評

振興部会長 豊田 恵男

令和7年度第20回農業委員会主催図画作文コンクールに多くの応募をいただき、ありがとうございます。各学校の担当の先生方のご協力に、厚くお礼申し上げます。今回もJAちちぶ農協様のご協賛をいただきました。子供たちが農業に関心をもち、両親、祖父母との会話の中に土に生きる楽しさを感じる作品に出会えることができ



優秀賞

「きゅうりの収穫をする
おじいちゃんとおばあちゃん」

原谷小学校 4年 彦久保 七香



JAちちぶ特別賞

「おいしいお米ができますように」

原谷小学校 6年 家内 結愛

ました。中でも令和の米不足があり米を話題にした作品が多くあり、食に感心があつたかとうれしく思いました。作文では収穫までの時間がなかったのが残念でしたが、続きは来年度の作品で逢うことが出来ますように願います。人生の中にも農業があり、農業の中にも人生があります。皆んなそれぞれの素晴らしい人生を見つけて下さい。最後になりますが、関係者の皆様、ご協力ありがとうございました。

農業政策課からのお知らせ

農業委員の改選及び農地利用最適化推進委員の委嘱について

秩父市農業委員、農地利用最適化推進委員の任期が、それぞれ令和8年7月19日で任期満了となります。

秩父市の定数は、農業委員13名、農地利用最適化推進委員14名、計27名です。

農業委員の活動は、性別や年齢に関わらず、地域農業の将来を見据えた取り組みとなるように、多様な人材が求められています。そのため、秩父市農業委員会では、農業や地域活動に熱心に取り組む女性や若手の委員登用促進を行っています。

現在、秩父市農業委員会では、13名中4名の女性が農業委員として登用されています。一方で、49歳以下の若手委員は2名にとどまっています。(現状では、女性委員は目標数値である、定数の30%を超えています。)

併せて、農地利用最適化推進委員においても、女性及び若手委員の登用促進を行っています。

農業委員(市議会の同意を要件とする市長の任命制)及び農地利用最適化推進委員(農業委員会が委嘱)の募集の詳細につきましては、後日市報に掲載いたします。

農業委員：農業委員会に出席し、農地法や他の法令に基づく農地の転用・権利移動に係る許可等に関して、審議及び判断を行います。

農地利用最適化推進委員：現場活動を主に、担当する区域において、担い手への農地利用の集積・集約化、遊休農地の発生防止・解消、新規参入の促進を行います。

現地での活動においてはタブレットを活用して農地の確認作業などを実施しています。

問 農業政策課

☎(25) 5210

農業委員会事務局

☎(25) 5231



鳥獣対策課からのお知らせ

前号で、サル被害対策について掲載しましたが、今年度のサルの動きは、昨年度の動きをベースに集落への依存度が増している状況です。集落全体での追払いなどの対策が必要不可欠です。引き続き「獣害に強い地域づくり」を推進して参りますので、ご協力をお願いします。

さて、今号では、シカ・イノシシの被害対策について掲載します。○シカ・イノシシから農作物を守るために

近年、シカ・イノシシによる農作物被害発生地域が拡大しています。

これに加え、イノシシによる庭先の植木の根元の掘り起こし、自宅裏山斜面の掘り起こしなど、生活環境を脅かす被害も増加しており、今後、人的被害の発生も懸念されています。

○野生動物は何故人里に?

一般的には「山に餌が無いから」と言われていますが、

野生鳥獣は、山の中などで一日中餌を探し回り、おなかを満たされるのが無いたがが本来の姿です。これに対し、人里には簡単に手に入りおなかいっぱい食べられる餌があり、安全が担保されれば

繰り返し餌場として利用します。この状況は、同時に栄養も担保され繁殖率も増加することになります。

○防除対策の推進

鳥獣被害対策は「自分の畑は自分で守る」を基本としています。

対策① 電気柵・防護柵の設置

被害の現状を踏まえると、昔のように捕獲のみの対策で被害を無くすことは無理な状況です。侵入防止柵を設置し、農作物の収穫と繁殖率を増加させない対策を実施しましょう。

市では、電気柵などの設置に対し補助金を交付していますが、柵を設置する前、資材を購入する前に必ず市に対し補助金利用の申出を行ってください。

対策② 誘因物の除去

収穫残渣や廃棄農作物の放置をやめましょう。これらは、野生動物から見たら御馳走です。

また、不要果樹も野生鳥獣を人里に誘因する原因の一つです。

対策③ 加害獣の捕獲強化

市では、侵入防止対策の推進と並行して、加害獣の捕獲強化にも取り組んでいます。農作物被害など発生した際は、あきらめることなく市に連絡をお願いします。

問 鳥獣対策課

☎(22) 2496 (直通)

農業委員会からのお知らせ

農地利用意向調査に

ご協力ください！

令和7年度農地利用状況調査の結果を踏まえ、遊休農地と判断された土地の所有者の方に対して、2月頃に郵送で農地利用意向調査を実施します。

通知の届いた方につきましては、「自ら耕作している」、「貸したい意向がある」等の選択肢の中から、現時点での農地の利用意向について最も近いものをご回答いただき、同封の返送用封筒を使ってご返送ください。

この調査は農地法で毎年行うことになっております。去年回答いただいても、農地利用状況に変化がなければ、同じ通知が届きますので、ご了承ください。

なお、本調査は貸付け希望の農地の把握や非農地判断の参考等、農地の利用の最適化の推進を目的に農業委員会が実施するものであり、課税調査等とは関係がありません。



県知事表彰

11月14日、埼玉会館大ホールにて、令和7年度県民の日記念式典(表彰式)が行われました。

長年にわたり、農業委員会委員及び会長を務め、農地の保全管理、耕作放棄地解消に尽力し、その他委員会活動にも積極的に参画した功績が評価され、前農業委員会長の桑東男氏が産業功労者として県知事表彰を受賞されました。おめでとうございます。



桑 東男 氏

農地の管理は適正に
お願いします。

耕作されていない農地に、雑草が生い茂って困っているといった苦情が多数寄せられています。荒廃した農地は、病虫害や火災の発生原因となるだけでなく、見通しが悪くなることで交通事故を誘発したり、ゴミの不法投棄の温床となる

など、地域環境に重大な影響を与える可能性があります。農地を所有する方は耕作されない場合も、定期的な耕うんや除草など農地の適正管理に努めるようお願いいたします。

菜の花実証展示圃

農地部会長 黒沢 昌治

農地部会では遊休農地対策として、菜の花の実証展示圃を設置しています。8月4日には草刈り、10月16日には耕うんと菜の花種まきを行いました。

春になれば、一面が黄色に染まり、訪れた人の目を楽しませ、ミツバチを呼び、土を肥やし、また次の作物につなげていくことを期待しています。



問い合わせ

農業委員会事務局

☎ (25) 5231

吉田総合支所地域振興課

☎ (72) 6083

大滝総合支所地域振興課

☎ (55) 0862

荒川総合支所地域振興課

☎ (54) 2114

農業者のための公的な積立年金「農業者年金」に加入しませんか。
政策年金ならではの支援策が充実し、積立方式(確定拠出型)で少子高齢化時代に対応した年金制度です。



朝の光



農業委員
新井 範
(下影森)

私は、農業を受け継いで52年目になります。農地面積184アールで、ぶどう・いちごの生産をしております。農業は、この50年色々ありましたが、今も昔も農業は、天候に左右されっぱなしです。天候不順と言われ出して20年くらいになります。その後、異常気象と言われ始め、現在では地球温暖化となり、夏の雨の降り方では、収穫もままならない状況となっております。

天候に左右されない施設へと転向するべく、ぶどう生産者の皆さんと国の「産地パワーアップ事業」を導入することができ、これにより秩父地域の生産安定を図ることができ、また、新しい品種の導入、秩父地域オリジナル品種・ちちぶ山ルビーの生産安定を進めることができます。この他にも若手生産による発案で、「ちちぶ山ルビー」のさらなる発展を目指すためのプロジェクトを立ち

上げ進めております。

苺では、現在では、県オリジナル品種「あまりん」「かおりん」。品種名の命名は、林家たい平師匠で、全国野菜ソムリエ協会での認証をしております。

農業生産者が高齢となり、生産人口が減少となるなか、ぶどう・いちご生産者では若い後継者が育っておりません。一方では、農地の保有者の高齢化などで、遊休農地、耕作放棄地といった農地の解消や活用方法、皆さんで考えて行ければと思います。若い農業生産者の農業者年金の加入を進めるのも大事ではないかと思っております。



「産地パワーアップ事業」施設
(令和7年11月建設中)

耕地の話題



農地利用最適化
推進委員
新井 明弘
(吉 田)

私は養蚕農家の長男として生まれましたが、両親の姿を見ていてとても農家の後継ぎになれず、サラリーマン(営業・サビビス業)職に就き定年になるまでの65歳まで勤めました。定年になり自分の畑や田圃を見て回ると、畑にはススキや葛の葉に覆われていてとても畑と言えない状況を見て、これでは両親に申し訳ないと思い、畑の現状回復(保全管理状態)に戻すための地獄の作業を開始しましたが、体力的に厳しい毎日を通り、やっと畑がどうにかなり、やれやれと思って田圃を見て回ると、田圃には、柳や木草・篠等が生え現状回復は無理なので、田圃から農地改良して畑にしました。そこに栗の木と柿の木を植えている春に、農業委員会の農地利用最適化推進委員にならないかと、断れないようにした話があり受けました。

農地利用最適化推進委員に任命さ

れた時は、新型コロナ最悪期で会合や交流会もなく三年間とても寂しく農業委員会にとっても不信感を覚えしました。そんな時期に自分の担当地域の状況確認をして農地が大変なことになっていることを知りました。区画された地域のかかなり多くの土地に草が生えて何年も手が入らない土地が有りました。

自分の担当地域は三箇所区画整理した農地がありますが、みんな厳しい状況でした。自分の住む村の耕地状況を確認してみると、かなりの農家が高齢化で耕作ができない畑や田圃を持っていることがわかりました。理由は世帯主が亡くなり奥さんが頑張っている家や、跡取りが居ないために家は空き家で農地も手入れができないでいる地主さんの畑・田圃等の草刈りや管理を自分に出来る範囲で管理のお手伝いをしていきたいと思っております。

自分は、父から受け継いだ畑や田圃・山を今のまま息子の代に繋ぐのが自分の仕事だと思っていました。今2期目に入り農地の見守りや農地パトロール・定例総会等に参加し充実した農業委員会生活を通じております。

農と詠む



村田 軍司 註

斜面畑農夫見上ぐる鰯雲
(高 篠) 村田 軍司

稲架の列鎮座するごと武甲山
(宮側町) 福島ときみ

山裾の小さき田んぼや豊の秋
(上 町) 石川 弘美

抱へたる赤子の重し豊の秋
(中宮地町) 浅見 昭文

日の香り残し新米炊きあがる
(蒔 田) 島田 敦子

風風ざし収穫の空鳥渡る
(高 篠) 北堀 聖

農継ぎて嫁も棚田の稲を刈る
(金室町) 峯 迪夫

コンバイン去つて吹き来る刈田風
(下宮地町) 村山 勇治

稲架掛けの棚田見てゐる車椅子
(大野原) 玉井 市憲

古代よりつなぐ棚田や稲架の道
(太 田) 引間 敏恵

知々夫の夜ばなし

『秩父弁と関東べい』

荒川歴史懇話会 新井 充

秩父人にとって、最も馴染み深い言葉である「だんべ」も、最近めっきり耳にする事が少なくなりました。今回は、昭和三十年代を懐古し、代表的な秩父弁の一つである「だんべ」の記憶を辿りたいと思います。

関東べい

「だんべ」は、今でこそ秩父や群馬県特有の方言のイメージがありますが、かつて、江戸が武蔵国豊島郡の海べりの一寒村だった頃は、江戸を含む武州、上州・相州の西関東一帯の在郷の村々の共通語として、至る所で話されていたものと思われまふ。秩父弁は多摩弁等と共に武州弁に、武州弁は西関東方言に、西関東方言は、江戸時代には「関東べい」と俗称されていた関東方言に含まれます。

武州弁(江戸近郊)

江戸時代、中山道を北上し、本郷三丁目(文京区)周辺を過ぎると、墨引地内にも拘わらず、街道沿いは、一気に農村的な景観に変わったと云われています。恐らく、周辺の豊島郡・葛飾郡・荏原郡・足立郡・新座郡に至っては、純農村風景が広がっていたに相違なく、「だんべ」は、日常語として頻繁に使われていたものと思われまふ。

昭和十八年東京市世田谷区千歳

「各クラスの少数派である農家の子弟たちは、級友から『だんべ族』と呼ばれて、軽い被差別感を味わわなければならなかった。語尾にしばしば『だんべ』をつけた彼らの関東方言は、旧市街の山手から移り住んだ『のてっ子』にはもちろん、共通語を話す他の都市からの新来者にも土の臭いを感じさせ、からかいの対象にされたのであった」。

『疵』本田靖春著 文春文庫

右の文は、戦前の東京府立千歳中学校の生徒の動向を記したものです。所在地は東京市世田谷区千歳(昭和十一年迄は北多摩郡千歳村)。東京府の都市化と共に、「だんべ」に代表される武州弁が共通語に依って駆逐されていった過程がよくわかります。

だんべの記憶

埼玉県内の六十九の市町村誌から「だんべ」の痕跡を捜してみました。記載があったのは、八潮市、騎西町加須市、志木市、入間市、神川町、神泉村、荒川村(中川村含む)、大滝村の九つの市町村誌でした。ほぼ全県に亘っています。市誌ではありませんが、神奈川県秦野市のホームページにも「だんべ」についての記述がありました。調査した県内外の七十六の市町村(合併前も含む)誌の内、方言を取り扱っていたのは、僅かに十五の市町村誌だけでした。

編集後記

広報部会副会長 小久保健司

本号では、農業委員会主催小学生の「農業に関する作文・図画コンクール」の作品を紹介しております。全ての作品がすばらしく感動の連続でした。指導に当たりました先生方、御家族の皆様に感謝しております。

昔から、桃栗三年柿八年柚に至っては長い年月を要すると言われております。種を播き花を咲かせ実を結ぶ、私達農業者は、当たり前の様にこの事の繰り返しです。

近年は安売りの代名詞だった「米・牛乳・卵」が注目されております。農政の専門家がスーパーで価格、情報収集をしている様では、日本の農を守る責任ある立場の人の行動かと疑問を持つ今日この頃です。未来の秩父地域社会と農業へのAIの有効活用発展に大い人として子供達が夢と希望を描ける道標となる様にならなければならぬ。

秩父市農業委員会は皆様から提出された案件を協議しております。農を守る事に関心のある人は、農業委員会の扉をたたいてみてはいががですか。何卒、ご協力をよろしくお願い申し上げます。

秩父市農業委員会広報部会

会長

青野 孝司

副会長

小久保健司

委員

井原 愛子

委員

栗原 恒明

委員

齊藤 稔

委員

岡田 英幸